

## 快晴無風の絶好の大会日和の下、史上希に見る接戦を展開

### 第 17 回全社対抗屋内消火栓操法競技大会

#### 《21 所属 84 選手が参加》

CSPでは毎年、警備会社の「表芸」の一つとして、屋内消火栓操法の日頃の訓練成果を競い合う「全社対抗競技大会」を開いています。今年も10月5日、第17回大会をいつもの東京都千代田区大手町の三井物産本社皇居前プラザで開きました。参加は本社と5事業部、15支社からの21チーム。選手は1チーム予備員を含め4人ずつの計84人。

午前9時からの開会式では、大会長の福西社長から「当大会は、春の基本実技審査会と合わせて、当社の非常に重要な柱です。今日は、皆さんの日頃の鍛錬の成果を見せて頂くということで、大変楽しみにしています。持てる実力を十分に発揮するようにお願いします」と挨拶がありました。

次いで、毎回審査官を務めていただいている、丸の内消防署の角田瑞彦予防課長(審査委員長)と3人の消防官の紹介に続き、京都支社、兵頭正三指揮者(24)が力強く「選手宣誓」を行いました。

この日の都心は、快晴で秋の日差しが降り注ぐ絶好の大会日和。競技は沼津支社の演技からスタートしました。多数の応援者が見守る中、各チームの選手達の気合のこもった掛け声が休日のオフィス街にこだましました。

#### 《2チームが同点首位》

団体賞は東京システム事業部と横浜支社が同点でトップ。規定で選手の年齢合計が上回った東京システム事業部の優勝に。また、1位と最下位の差もわずか6点の僅差でした。個人賞も同様で、中でも1番員は最優秀から6位まで同点という史上希に見る接戦の大会になりました。

競技終了後、同消防署員のエンジンカッターによる鉛管の切断などの模範展示、審査委員長の講評に続き、武居副大会長(常務・警務本部長)から「本来なら、優勝してもおかしくないチームが入賞もしなかったのは、何を意味するか。ひとつ油断をするとこの結果になるということです。これは有事の際にも通ずること、訓練が訓練に終わっている隊はあまり意味を成しません。『何故こういうことをやるのか』を考え、実戦を踏まえた訓練をやって頂くことが大事です」との講評で大会を締めくくりました。



「会場では、各チームによる気合のこもった演技が繰り広げられた」